2026年10月号　NO.6

UNITED WAVES NEWS LETTER

想いをカタチに。人の心をつないでゆく。









写真上段・左から（三上真史さん、桂川孝裕亀岡市長、白砂伸夫さん、三島澄恵＊イベント部分の司会を担当させて頂きました。）
写真下段：京都・亀岡保津川公園および周辺会場

自然のままが美しい、自然のままに楽しむ

9月19日（土）、全国都市緑化フェアin京都丹波と趣味の園芸フェアのコラボイベント「趣味の園芸フェアin京都丹波」が開催されました。（企画制作：NHKエデュケーショナル様）

第1部では、ランドスケープデザイナーの白砂伸夫さんと園芸デザイナーの三上真史さんによる「農家に学ぶ『道庭』」をテーマにした趣味の園芸の公開収録が行われました。

聞き馴染みのない「道庭（みちにわ）」という言葉。
これは、白砂さんが提唱されています。農家の道沿いには、その土地に合った植物が息づいていますが、農家の方は特別なお手入れはされていないそう。ローメンテナンスでローコストという農家の知恵をもとに、三上真史さんの進行で、庭づくりに取り入れる工夫を白砂さんが教えてくださいました。

第2部では、第1部のお二人に加え、亀岡市の桂川孝裕市長をお迎えし、「京都丹波みどりの里まつりの楽しみ方」と題したトークショー。今回の緑化フェアのテーマは「食農と環境そしてアートで輝く『京都丹波』」です。これまでの都市部中心の開催とは異なり、豊かな自然や農村風景そのものを舞台にしている点が特色の一つとのこと。亀岡市では自然環境の保全と地域活性化を一体的に行う「世界に誇れる環境先進都市」を目指されていて、今回の都市緑化フェアへの並々ならぬ想い、市長のお話から感じました。

会期始めは、まだ咲いていない花も多くありましたが、それもまた自然の姿。また、田んぼに実った稲穂の中に、竹を使ったアートが点在していますが、会期中は稲刈りも行われ、季節の移り変わりも感じられます。

自然の姿をそのままに楽しめるのが、今回の都市緑化フェアの魅力の一つです。

そのほかの4つの会場は、亀岡運動公園（亀岡市）・園部公園（南丹市）・わち山野草の森（京丹波町）・京都府立丹波自然運動公園（京丹波町）もそれぞれの特色が生かされています。

初めての試みがいっぱい！ 全国都市緑化緑化フェアin 京都丹波

今年43回目となる全国都市緑化フェアは、昭和58年（1983年）から、毎年全国の都市の持ち回りで開催されています。私たち1人1人が緑の大切さを認識し、緑を守り、愉しむことの大切さを伝える花と緑の祭典です。

今年は、亀岡市・南丹市・京丹波町の京都丹波地域という2市1町による連携開催。これは全国都市緑化フェア始まって以来、初めてのことです。また、これまでは、都市の中に新しく緑の空間や美しい庭園・花壇を作り出すという視点でしたが、今回は食農やアートを全面に出した初の試みです。

会期は残すところわずかですが、秋の深まりと共に、日本の原風景が色濃く残る京都丹波地域を訪れてみませんか？

▶第43回全国都市緑化フェアin 京都丹波
https://kyototamba-fair.jp/
期間：2026年9月18日(金)～11月8日(日)

「どう話すか」と「何を話すか」どっちが大事？

代表　三島澄恵

私が「人前で話すことが苦手」と言うと、驚かれます。
司会や講師として話すのは全く問題なく、むしろ私にとっては、これがなくなったら、私には何もなくなるのではないかと思うほど大好きなことなのです。
苦手なのは、人前で「自分のことを話す」ことです。先日も、毎月参加している勉強会のパーティーで近況報告をする機会があったのですが、「何を話そう？」と考えるものの、決めきれないまま話し始め、まとまりのない話で終わってしまいました。
「あ～、またやってしまった。。。」と落ち込んで、自分のことを話すのって難しいな～と思ったところでした。

ところで、「話し方」というと、ボディランゲージや表情、声や抑揚、メリハリの付け方などをイメージする人が多いのではないでしょうか？
確かに、同じ内容でも見た目や口調で伝わり方は大きく変わります。しかし実はそれ以上に重要なのは、構成を含めた「話す内容」です。
あなたも経験がないでしょうか？
「この人の話し方は自信があって上手だな。」と思って聞いていたのに、聞き終えると「結局、中身は何だったのだろう？」と感じたこと。

こんな研究があります。
スイス・ローザンヌ大学の組織行動学者、ジョン・アントナキス教授を中心としたリーダーシップに関する研究です。この中で「カリスマ的な話し方」を12の具体的な戦術として体系化しています。その戦術は、「非言語」と「言語」の大きく2つに分けられるのですが、どちらがどのくらい多いと思いますか？
実は、12のうち非言語は、3つだけです。声の抑揚、表情、ジェスチャーの3つがそれにあたります。
残る9つは、「何を言うか」、つまり言葉の選び方に関するものです。

その9つは次のとおりです。
①比喩・たとえ：聞き手が想像しやすく、分かりやすくなる
②ストーリー・逸話：自分や他者の体験談で語る
③対比：反対の要素を並べて、主張を際立たせる
④修辞的質問：答えを求めず、聞き手に考えさせ、巻き込む
⑤3つのリスト：要点を3つにまとめ、記憶に残りやすくする
⑥感情の共有：聞き手が感じていることを代弁して言葉にする
⑦道徳的確信の表現：信念や「正しいこと」を語り、行動の意味を示す
⑧高い目標の設定：具体的で挑戦的な目標を掲げる
⑨目標達成への自信の表現：「あなた（私たち）ならできる」と伝え、その根拠を示す
（研究者が原典で示した英語の名称を日本語に訳しています。）

では、非言語の3つの部分である声・表情・ジェスチャーについて、アントナキス教授は何と言っているかというと、「話す内容に自信があれば自然に出てくるものだ。」と述べています。
例えば「道徳的確信の表現」とあります。これは、話し手が信じていることや「正しい」と思うことを語るものですが、その言葉と行動が一致していることが求められます。
「禁煙しましょう！」と呼びかけた本人が、実は隠れてタバコを吸っていたら、その言葉は意味をなさなくなりますよね。政治家などの責任ある人の発言は尚更、この言動の一致が求められます。しかし、時に、その言動の不一致を指摘された人は、声に自信がなくなったり、しどろもどろになったりします。まさに、言葉が非言語の部分に影響していると言えます。言葉に対する想いが、そのまま声や動作に表れると考えると、言葉と真正面から向き合うことは、とても重要だと言えます。
私は司会や研修講師の時は自信を持って話せます。「何か少しでも役立ちたい！」そう思って全力で取り組んでいるので、情熱が声にも宿るのだと感じています。しかし、こと自分の話となると・・・
多分私は、自分のことを話すより、司会として相手の話を聞いたり、その場を楽しくしたり、講師として少しでも役立つ情報を伝える方が好きなんですね。この文章を書きながら、改めてそのことに気づきました。

「話し方が上手くなりたい！」と思っている人は、「これを伝えたい！」という明確な思いをまず言語化することや、自分が夢中になっていることは何かなど、自分の中にあるものと向き合うと、声やジェスチャーも自然と味方につけることができるのではないでしょうか。



【アントニ・ガウディの言葉】

**“全ては、
自然が書いた偉大な書物を
学ぶことから生まれる、
人間が造る物は、
既にその偉大な書物の中に
書かれている。"**

ガウディの没後100年にあたる今年、中央の「イエス・キリストの塔」の外部工事が完了しました。その高さは172.5メートルに達し、世界で最も高い教会といわれています。ガウディは、自然を「偉大な書物」と見立て、生涯その中から学び続けたと伝えられています。サグラダ・ファミリアの柱が樹木の幹や枝の形に似せて設計されているのも、その姿勢の表れといわれています。
人が未来を描き続けていくために、身近な自然をじっくり見つめることは、大きな助けになるのかもしれません。

■みやざきの神楽 国立能楽堂公演

今年10回目の「みやざきの神楽 国立能楽堂公演」先日、10月27日（火）に開催されました。今年も司会を務めさせて頂きました。
今年は高鍋神楽の皆さんが披露してくださいました。高鍋神楽は、旧高鍋藩領に伝わる比木神楽・三納代神楽・都農神楽の総称で、6つの神社が毎年持ち回りで奉納する「六社連合大神事」で伝承されています。
神楽は地域の歴史や風土が色濃く反映されていて、団体によって異なる装飾や舞などが受け継がれています。そこには、自然と共に生きてきた私たち日本人の心が根付いているように感じています。
現在、神楽は、ユネスコ無形文化遺産登録の日本の候補に選ばれていて2028年にユネスコでの審議・登録が予定されています。

主催：宮崎県　共催：高鍋町、新富町、木城町、川南町、都農町
企画・演出：もとはる（西村元晴 あのラボ https://annolab.com/）

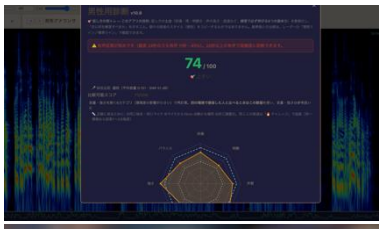




今回の公演の様子が、地元宮崎のテレビ局「UMKテレビ宮崎」のニュースで紹介されていました。
→ https://umk.co.jp/news/?date=20261028&id=35142

【組織のリーダー向け「伝わる力を磨く！」トレーニング】

●現在、リーダー向けの話し方の基本を診断できるアプリを作成中です。
ご興味ある方はお気軽にご連絡ください。






AIの進化によって原稿やプレゼンテーションの資料などをAIに任せているという人も少なくありません。しかしそれで本当に、伝わっているのでしょうか？
組織を担う幹部候補や管理職というリーダーの皆様の言葉は、組織を強くする鍵を担っています。AIを活用しながらも、リーダー自身が自らの言葉で、声表現をする「言声化」を目指し、伝わる力を磨くトレーニングです。
カリスマ性や人の心を掴むコツなど、心理学や脳科学に基づいたプログラムで効果的にトレーニングを行っています。お気軽にご相談ください。

＜受講者の声🎤＞
▶一人一人に対して的確なアドバイスがある
▶リーダーとして覚悟を持つことに気づいた
▶実務外のスキルだが、実務を強化するために必要なスキルだと感じた

【Podcast 三島澄恵の「伝わる」話し方 毎週月曜配信中】

SpotifyやApple Podcastからお聞きいただけますので、
よろしければお聞きいただけると幸いです。
ご質問やご感想はお気軽にお寄せください。

🎧Spotify
https://open.spotify.com/show/2ByeHdH2NTB3jyuo13XVxj?si=_t_stbh0Q7G7PhSairWrww
🎧Apple Podcast
https://apple.co/3ZzPvIt



ユナイテッドウェーブスの事業

UNITED WAVES

コミュニケーション事業部
放送・CM・イベント・式典などの司会・アナウンス・ナレーション
講演・研修・セミナーなど教育・研修事業
映像・音楽コンテンツの企画・制作

テクニカル事業部
コンサート・演劇・イベントなどの音響プランニング・オペレーション
コンサート・イベントの企画・制作・運営
ホール・店舗などの各種施設における音響・照明・映像設備のプランニング・施工・管理

お問合せ：info@united-waves.jpまでお気軽にどうぞ。